

市長定例記者会見（令和4年5月24日）録

11時30分～12時05分

まず、題材に入ります前に、2点、御報告させていただきます。

1つ目は、新型コロナワクチンの4回目接種でございます。

本市の新規感染者数の状況ですが、ゴールデンウィークの後半、5月6日以降、再び増加傾向に転じております。増加傾向に転じておりましたのが、最近になりまして若干増減を繰り返していましたが、若干ながら減少に転じているのではないかとございまして、20日21日あたりは140人130人くらいということですので、150人前後で増減している状況かと思っております。

また、20歳代以下の感染者数が、全体の6割弱を占めております。特に、10歳台以下が35%と高い状況が続いております。

このような傾向ですが、感染力が強いオミクロン株の第6波が始まった1月以来、現在まで同様な形で続いてきて高止まりしている状況でございまして、子どもや若者層に多いのは、家庭内での感染が主因となっている場合が多い、人流が最近増えてきて若者が出歩く機会が多くなったということが要因の一つであると考えております。

そういう中でのワクチン接種の状況につきましては、5月18日（水）時点で3回目接種を終えた方は、約23万人、接種率は、53.9%です。そのうち、20歳代は、37.1%、30歳代は、40.6%と、4割前後に留まっている状況でございます。

新型コロナワクチンの4回目接種につきましては、先般、御報告させていただいておりますが、明日25日（水）から、個別接種について、4回目接種を開始いたします。今回も、約250機関の御協力をいただきまして実施いたします。

予約受付は、個々の医療機関の準備状況等に応じて、順次開始させていただきます。

また、4回目接種の集団接種につきましては、28日（土）から開始をいたします。28日（土）・29日（日）に、接種を希望される方は、予約の必要はありません。当日、会場となります市役所13階大会議室まで、接種券を持って、直接、お越しください。

集団接種の6月4日（土）以降については、5月30日（月）午前9時から、本市のオンライン予約サイトや、コールセンターで受け付けを開始いたします。ワクチン接種は、コロナ収束のための有効な手段でございます。本市といたしましては、円滑にワクチン接種が実施できるよう鋭意取り組んでまいりたいと存じますので、接種の重要性を御理解いただき、4回目についても早めの接種を御検討いただけるよう、お願いいたします。

2つ目は、高松まつりについてでございます。

本市のコロナの感染状況は、先ほども申し上げましたように、最近では、150人前後の新規感染者が確認されておりますが、中等症や重症者がほとんどいない状況でございます。医療のひっ迫のリスクは、大きくはない状況かと思っております。

今後は、感染症対策に万全を期す、守りをしっかりと固めて、そして、日常生活の回復と社会経済活動の活性化の両立に向けて、取り組んでいく必要があるものと存じます。

高松まつりにつきましては、4年前の令和元年度は、台風の影響により花火大会と総おどりが中止となり、また、昨年、一昨年と2年連続で、新型コロナウイルス感染症の影響で開催そのものが中止となり、非常に残念に思っております。

現在、高松まつり振興会において、今年、開催できるかどうかについて検討しております。私といたしましては、高松まつりを楽しみにしてくださっている市民や観光客の皆様のためにも、今年こそ、3年ぶりに高松まつりを開催して、市民の皆様元気を取り戻していただく、また、高松に、にぎわいと活気を取り戻す契機にしたいと考えております。

ただ、花火大会につきましては、サンポートエリアの各種施設の整備が進む中で、観覧場所が大幅に縮小にならざるを得ない状況で、コロナ対策を含めた安全対策が困難であり、警備計画の策定には、より慎重な検討を要するとの報告を受けておりますことから、今年は、花火大会については実施を見送らざるを得ないと考えております。

また、私といたしましては、中央通りでの総おどりや中央公園でのステージイベントにつきましては、できるだけ例年に近い形で開催したいと考えております。今後、医師会や保健所にも相談しながら、万全な感染防止対策を講じた上で安全

に、高松まつりを開催できるよう、まつり振興会において具体的に協議し、最終的に6月上旬には正式に決定する予定となっております。

そのときには正式に御報告をさせていただきたいと存じます。

高松市庵治太鼓の鼻オートキャンプ場の民間活用事業者の募集について

それでは、題材に入らせていただきます。本日は2点ございます。

まず、1点目は、「高松市庵治太鼓の鼻オートキャンプ場の民間活用事業者の募集について」でございます。

庵治太鼓の鼻オートキャンプ場は、目の前に瀬戸内海の絶景が広がる、素晴らしいロケーションにあり、市内外からも良好なアクセスにあるなど、観光資源として、大きなポテンシャルを有する施設でございます。近年は、利用者数の減少や施設の老朽化に伴う修繕費の増加などが課題となっております。

このため、昨年度、「庵治太鼓の鼻オートキャンプ場」について、サウンディング調査を行い、施設の在り方を検討した結果、より魅力的な施設として活用されることを期待し、本市では初めて、キャンプ場の貸与及び譲渡等を前提にして、それを行う事業者を広く募集するものでございます。

提案につきましては、庵治半島の豊かな自然を活用した観光施設としての機能を維持しつつ、地域活性化を始め、周辺地域との交流促進、さらには、庵治・牟礼・屋島地域のエリアマネジメントにつながるものとしております。

日程は資料のとおりでございますが、「企画提案書」の提出を、7月1日（金）から15日（金）までの間で受け付けます。

8月上旬に、第1次選考を、下旬に、第2次審査を行い、第1次審査、第2次審査とも「企画提案書」と「プレゼンテーション」の審査を行います。

参加資格は、市内・市外事業者などのほか、共同事業体グループでの応募も受け付けております。

そのほか詳細につきましては、募集要項を御確認いただければと存じます。

当該施設の利活用を通じて、新たな庵治地域の魅力の発見や、向上、さらには、本市の観光振興が図られることを大いに期待しております。

バイオマス発電の効率稼働に向けた、さぬきうどんの廃棄物利用実験の実施について

2点目は、「バイオマス発電の効率稼働に向けた、さぬきうどんの廃棄物利用実験の実施について」でございます。

本市の東部下水処理場では、下水汚泥と、し尿等を合わせて消化タンクに投入し、発生した消化ガス（バイオガス）を利用して、平成28年2月からバイオマス発電事業を実施しております。稼働から6年が経過し、夏場の消化ガス発生量の減少や、発電量の低下が問題となっております。

この度、消化ガス発生量の増量及び安定化を図り、発電設備を効率的に運用するために、「さぬき麺業株式会社様」に御協力をいただき、工場でうどんを製造する工程で生じる、切れ端などの「廃棄されるうどん」を提供いただき、廃棄うどんを利用したバイオマス発電の実験を実施することといたしました。

実験は、6月3日から1年間で、消化タンクに廃棄うどんを投入し、下水汚泥と混合することで発生する消化ガスを増量させ、発電量の増加を検証いたします。

これに併せて、廃棄うどんを提供していただく「さぬき麺業株式会社様」と協定を締結いたします。締結式は、6月3日（金）午前10時から、市防災合同庁舎503会議室において実施いたします。

この実験で得られたデータを基に、今後、下水道資源の有効活用事業を進めて行くことで、「ゼロカーボンシティたかまつ」の推進とともに、廃棄うどんを利用による食品ロスの削減にも大きく貢献できるものと期待しております。

【記者質問】

【記者】

県が自転車条例を改正し、自転車損害保険への加入を義務化したが、加入促進に向けた考えは

【市長】

本市または香川県は、平坦な地形と温暖で雨の少ない気候風土であることから、通勤や通学、買い物など、日々の生活において、自転車が手軽に利用されており、最近では、スポーツサイクリングといった形で健康増進を目的とした利用者も増えているところでございます。

そういう中で本市では、自転車が安全に走行できるように、1つは走行空間の整備ということで、五番町西宝線において、自転車と歩行者の通行帯を分離した自転車道を整備しました。街中で美術館通り北側や、保健センター東側の南北を通る「桜町3号線」など、市内の10路線において、自転車の通行スペースを明示する、矢羽根の路面標示の設置を進めるなど、歩行者、自転車及び自動車が適切に分離された自転車通行空間の整備を推進しているところでございます。

また、ソフト面の対策として、自転車の交通事故を防止するため、市内の小学校4年生全員を対象とした交通安全教室を毎年開いています。そこで、自転車の正しい乗り方などの実技指導を行い、自転車の運転免許証を交付し自覚を持っていただくようにしています。また、商店街において、自転車販売店等と連携して、無料で自転車点検を行う事業も行っています。

しかしながら、毎年、本市におきまして、500件を超える自転車事故が発生しており、この対策は引き続きやっていかなければならないということです。

特に今回自転車における損害保険への加入が義務化されたので、この機会に、より一層、県と関係団体と連携を図りながら、交通安全に対する啓発活動などを積極的に実施してまいりたいと存じます。

特にこの自転車損害保険等の加入の義務化については、具体的に広報紙やホームページへ掲載するほか、自転車安全運転講習会や交通安全フェアなど、様々な機会を捉えて、周知に努めてまいりたいと存じます。

【記者】

新型コロナワクチンが約2万回分廃棄される予定だが、その所感と今後の対策は

【市長】

コロナワクチンについて鋭意接種促進を進めています。そういう中で大量の廃棄が起こったことは非常に残念です。要因についてはいくつか考えられます。1つは、モデルナ製ワクチンが副反応が強いのではないかという認識が広がり、それを避ける傾向があったこと、また、オミクロン株になって感染しても非常に軽症で済む場合が多いので接種促進につながらなかった。ファイザー製ワクチンの人気が高かったことから、モデルナ製ワクチンが敬遠された。全体で本市で見ると、だいたい58%がファイザー製、42%がモデルナ製。国から県を通じた配分がそれよりもモデルナ社製の方が多く、しかも、使用期限が2か月前くらいのモデルナ社製ワクチンが配分され、全部使いきれなかったということです。モデルナ社製ワクチンは15人分が1バイアルなので、15人集めないと1バイアル使い切れないということで接種が行いにくい部分もありました。そういういろんな要因が重なって今回の廃棄につながりました。今後は計画的に必要な時に届いて、計画を立てて接種が行えるように、我々市としては県や国に要望した上で、大量廃棄が起こらないよう気をつけていきたいと思います。

【記者】

今年の高松まつりは実施する方向で進めているのか

【市長】

現在その方向で具体的な予算、いろんな問題絡むので、それについて詰めさせていただいています。

【記者】

その中でコロナ対策はじめ、諸々の中身は今後詰めていき、正式に6月上旬に発表するという流れでしょうか。

【市長】

コロナ対策として、土日がかかってくるので、医療体制の問題など、その辺に

ついて医師会の協力を得る必要があるので、そういう意味で医師会や保健所と十分に相談をした上で、正式に決定していきたいと考えています。

【記者】

新型コロナワクチンの廃棄について、使用期限が2か月前までのものが多く配分されたが、今後、県や国に対する要望は

【市長】

賞味期限ぎりぎりになって配分するというのではなく、ある程度期限を見据えた上で計画的に配分をしていただきたいという要望です。

【記者】

バイオマス発電の効率稼働に向けた、さぬきうどんの廃棄物利用実験で使う廃棄うどんの量は

【市長】

量ですか。分かりますか。

【下水道施設課】

量に関しては、うどんの生産量が季節や景気変動によって異なるということで、現在コロナ禍で人流が制限されており、生産量も低下しています。今回ご協力いただき、さぬき麺業様にご負担をおかけしない観点から、協定書の中では、量や納期を規定していません。お聞きしている話では、月 約400～600キロの廃棄うどんが出ると聞いています。不確かなものですが。

【記者】

バイオマス発電の実験後も継続的に廃棄うどんの利用を行うのか

【市長】

実験結果が良好であり、さぬき麺業様が協力していただけるということであれば、継続の可能性もあると思います。

【記者】

新型コロナワクチンの4回目の個別接種が始まる時期は

【市長】

個別接種は一応この25日からという話になっています。何か所くらいか、分かりますか。個別医療期間において始められるところは始めていただくということだと思いますが。

【保健予防課】

医療機関の協力は約250機関にお願いしています。接種の開始については、個々の医療機関の準備状況に応じて対応していきたいと思っています。準備出来次第、順次開始していくということで、25日以降対応していきます。

【記者】

新型コロナワクチンの4回目接種の見込み数は

【市長】

3回目接種は今50数%になっています。対象が3回目接種を打って5か月が経過した60歳以上の方と18歳以上の既往症のある方となっているので、それで順次発送していきますが、できるだけ該当する方については接種を期待したいです。具体的に何%というのは今立てていません。

【記者】

4回目接種でのワクチン廃棄対策は

【市長】

4回目接種の状況を見ながら、常に情報連絡を密にしながら、県・国あたりと連絡調整して、大量のワクチン廃棄が起こらないような計画的な接種を努めたいと思います。国に要望したいのは、今回4回目接種が出てきて、我々自治体としてはゴールがまた少しずつ遠のいていくという感じです。それについて、コロナ対策、結論的には難しいと思いますが、ワクチン接種についても、先々の目途を

早めに示していただきたいとお願いしたいと思います。

【記者】

国がマスク着用を緩和する方針を示したが、市長の考えは

【市長】

国においては20日にマスク着用に関する基準について考え方を示されました。私としては基本的な感染防止対策としてマスク着用は極めて重要であり、特に人と直接的に会話する場合にはマスク着用徹底していただくようお願いしていました。一方でコロナ禍が長期化する中、夏の時期を迎えることになると、屋外で熱中症の危険も出てきます。それについては屋外で支障のない範囲でマスク着用は必要ないと国から示されました。それなりに理解はできるものです。ただ、それは屋外での一定の条件のもとということなので、できるだけ感染拡大防止のためにマスク着用が有効であるということは変わらないので、必要に応じてやっていただきたい。それ以外の手洗い励行、人と人との距離を取る、換気励行、基本的な感染防止対策は徹底していただきたいと思っています。

【記者】

学校等でのマスク着用方針を変更する考えは

【市長】

未就学児のマスク着用については個々の発育状況、体調を考慮した対応が必要であるという見解も示されており、その情報をそれぞれ未就学児の施設に提供した上で適切に対応していただくよう指導していきたいと思います。

【記者】

原材料高騰による学校給食への影響について、今後の市の対策は

【市長】

食材の物価高騰において給食にも影響がでてきています。いろんな工夫をしながら提供しています。ただ、食材費の高騰というのが予想を超えてかなり急激であり、一部報道にあるような食材の制限にもつながっています。子どもの発育を促す給食はきちっと栄養が取れるような満足なものを提供するというのが我々の義務だと思っています。

従いまして、今回臨時議会に提案していますが、香川のいろんな食材を直接給食に提供することで手助けになるように事業を行うということ。今後の6月補正予算で検討していますが、給食会の給食費に直接大きな負担が生じる部分については緊急避難的に一般会計等で措置をする緊急対策も必要だということで検討します。給食費の範囲内でどうにかある程度満足した食材等の給食が提供できるように、色々な面から考慮していきたいと思います。

【記者】

給食費の値上げについての考えは

【市長】

考えていません。

【記者】

高松まつりの、総踊りやステージイベントの規模は今後の感染状況次第ということか

【市長】

感染防止対策は徹底して取っていく必要があるので、従来通りやれない場合もあり得るということで、それはそれに従うことになると思います。

あと全体として、おどり連が従来通りの数が参加していただけるのか、今のと

ころ打診をしているが確定はしていないので、その辺の数などによって若干開催形態は変わってくると思います。

【記者】

バイオマス発電の実験にうどんを使う意義は

【市長】

1つには特産品であるうどんを使うことによって話題性を高める、うどんは古くなると延びてしまうので置いておくと廃棄されるうどんが多い、食品ロスとしてもうどんの廃棄は問題になっているので、それをこのバイオマス発電に活用することによって2つの問題が解決する可能性があるということを考えています。

【記者】

バイオマス発電の実験が成功した場合の今後の展開は

【市長】

必要量や安定稼働といったこともあり、多くの店からその時々で余ったうどんをもらっていいですよというわけにはいきませんが、実験1年やってみて、少しでもうまくいくようなら継続できるように手法を考えていきたいと思っています。

【記者】

<バイオマス発電>

電気の使用先は

【下水道施設課】

発電した電気は固定価格買取制度（FIT）の契約に基づいて、20年間四国電力さんに売電をして収益を得ています。

【記者】

<バイオマス発電>

売電で収入を得るなど、メリットもあるということか

【下水道施設課】

さようでございます。

夏場に発生量が低下するところを補填するため食品廃棄物の有機物を確保しようという考え方です。